

INTERVIEW

今泉記念館ゆきあかり診療所 管理者兼診療所長
佐々木 航先生



「地域の医者」のアイデンティティを得て、今、次の一歩を踏み出す。

聞き手：山田隆司 地域医療研究所長

学生時代から地域医療に興味を持って

山田隆司(聞き手) 本日は、湯沢町保健医療センターに佐々木航先生をお訪ねしました。先生は、今、今泉記念館ゆきあかり診療所の診療所長を務められていますが、今日は、こちらで診療をされているということで、湯沢の方にお邪魔しました。実は私もこのセンター立ち上げの時に井上陽介先生と一緒に赴任しましたので、ここは非常に懐かしいところです。

先生は、協会の東通村診療所と白糠診療所に長く勤務した後、米国オレゴン健康科学大学のリサーチフェローとして1年間行き、帰国後ゆきあかり診療所に赴任されたという経緯があります。まず、先生のこれまでの経歴を簡単に紹

介していただけますか。

佐々木 航 私は三重大出身で、卒業後、市立伊東市民病院(現 伊東市民病院)で初期研修をしました。

山田 三重大大学だったのですね。どうして伊東市民病院を選択したのですか。

佐々木 大学4年のときに、新聞で地域医療振興協会(JADECOM)が紹介されていたのを見たのですね。それで訪問診療などが楽しそうだなと思って地域医療やへき地医療に興味を持ったのです。ちょうどその頃、三重大の総合診療に竹村洋典先生がいらして、地域医療のお話をよく伺いました。それで専門科よりも、地域医療、

へき地医療，総合診療の方面にいきたいと思うようになり，学生実習で1ヵ月間，揖斐郡北西部地域医療センターに行かせていただいたのです。

山田 そうだったのですね。その頃からご縁があったのですね。

佐々木 それで初期研修を選択する際に、「初期研修から地域医療を意識しているところはありませんか？」と竹村先生に伺ったところ、「あるとしたらJADECOMかな」と言われ，JADECOMの研修病院を受けようと思いました。JADECOMの研修病院で当時一番人気があったのは，東京北社会保険病院（現 東京北医療センター）や横須賀市立うわまち病院だったのですが，地域を目指しているのに，都会の病院で研修するののもどうかと思います（それもまた偏見だったのですが），あえて東京を避けて静岡にしようと考えて，伊東市民病院に行きました。

山田 竹村先生とは古くからの友人で，きっかけを作っていただいたようで本当にありがたいですね。それで，伊東市民病院での初期研修はいかが

でしたか。

佐々木 そうですね，率直にいうと大変でした……。責任を持って患者さんを受け持つというのは想像以上に大変で，自分自身要領を得ないところもあったので，夜中の2時ぐらいに寝て朝6時に起きるということが続いたりしました。

山田 初期研修医であっても責任を持たなければならないことが多かったのですか。

佐々木 もちろん最終的には上の医師が関わってくれるとはいえ，かなり決断する部分もありました。よい意味では任されていたわけですが。

山田 当時，伊東市民病院の研修センターは立ち上げばかりですよ。八森淳先生がセンター長だった頃ですね。

佐々木 そうです。船越樹先生もいらっしゃいました。それから，後期研修は南郷榮秀先生がやっていらした東京北医療センターの総合診療プログラムに入り，病棟管理などを1～2年学んでから地域医療のほうに進もうと思いました。

9年半の東通村での貴重な経験

佐々木 後期研修3年目になる2012年に，総合診療の片山繁先生に「地域研修はどこがいい？」と聞かれて，「どこにでも行きます」と答えたら，「東通村いいよ。すごくいいよ。ぜひ！」とものすごく東通村を推され，若干違和感がありながら（笑），せっかくだから行ってみようと思いました。六ヶ所村には2ヵ月くらい行ったことがあったので，東通村がどこにあるかは分かりま

したし，個人的には実家のある愛知県から遠くで，地元以外の自分だけの人脈，自分だけの世界を作りたかったというのもありました。

山田 なるほど。プログラム3年目で東通村には何ヵ月いたのですか。

佐々木 プログラムの中では9ヵ月です。その後村立東海病院の整形外科，台東区立台東病院のリハビリテーションに行き，ポートフォリオを書